

BBLセミナー コメント資料

2014年9月18日

「知的財産を巡る近年の動向」

—特許行政年次報告書2014年版及び特許出願技術動向調査から—

後藤 晃

<http://www.rieti.go.jp/jp/index.html>

Comments

後藤 晃

RIETI BBL, 2014.9.18

1.「世界最速・最高品質の特許審査」

審査の迅速化

- 「2013年度末までにFAまでの期間を11か月にする」という目標を達成

審査の質の向上

- 様々な取組をおこなっている

2. 「中小企業・個人の出願が少ない」

- 中小企業、個人の割合

日本 12%

米国 25%

韓国 15%

- 「政策的支援が必要」

3. 「標準必須特許、特許不実施主体 (NPE)対策の検討」

「諸外国の動向を注視しつつ、わが国における標準必須特許等に起因する諸問題を早急に把握、関係省庁とも連携し、速やかに対策を検討する」

- 欧米では競争法でも対応している

4. 「出願またはノウハウ秘匿化の判断」

年報に引用されている調査によると

「出願を選好する場合は
第3者による侵害が容易に発見できるもの
他社技術がさぐれるもの
競合他社が同じ技術開発をしている場合
営業秘密、ノウハウとして秘匿化する場合
侵害が容易に発見できないもの、探れないもの
競合他社がいないもの
開発が遅れている場合」

「近年は情報流出の問題が深刻化しており、ノウハウとして秘匿化するよりも、むしろ出願したほうが情報流出への対策として効果的である、との回答や、物質の分析技術の向上等により、ノウハウの秘匿化から特許出願するように方向転換を行ったとの回答もあり、出願又は秘匿化の判断基準が近年変化している可能性もある」

5. 特許出願技術動向調査

「特許情報を活用した技術動向の分析と情報発信」

3次元プリンターの例